

令和6年度全国学力・学習状況調査 概観

令和6年4月18日に、全国学力・学習状況調査が行われました。

この調査は、子どもの学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証して改善を図るとともに、学校における指導の充実や学習状況改善等に役立てることが目的であり、全国の小学校6年生と中学校3年生が全員参加して行われます。

下記の結果は当日調査に参加した児童の集計結果で、参考的な資料です。本校では、後日実施した児童の結果と合わせて集計・分析していますが、公表資料とできるのは当日実施の分だけですので、ご了承ください。

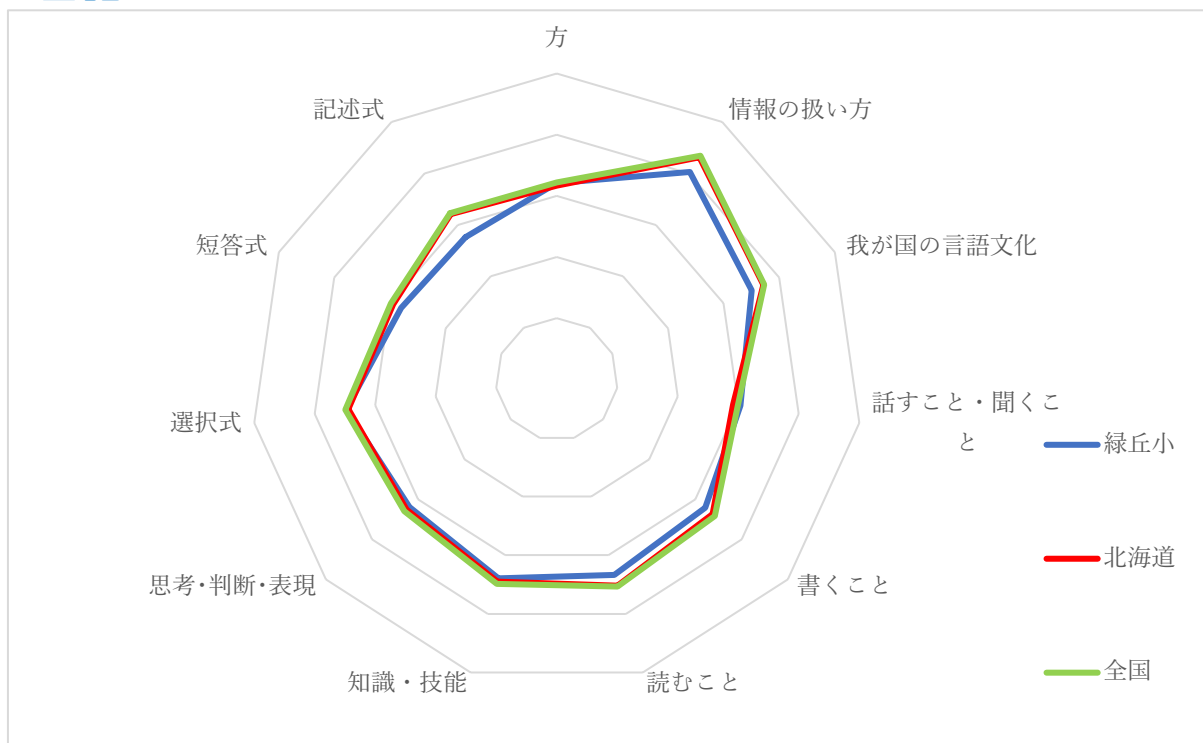
調査は「国語」「算数」の2教科と、児童の家庭生活や学習意欲等に関わる「学習状況等」について実施しています。

1 概観

- 国語の平均正答率は、全道・全国を下回りました。
- 「話すこと・聞くこと」については、全国をやや上回りました。オンラインで交流する場面において相手へ伝える工夫について、高い正答率となりました。
- 一方で、「情報の扱い方」などに課題が残りました。
- 算数の平均正答率は、全道・全国を大きく下回りました。
- 正答率の高かった問題は、①問題場面の数量の関係を捉え、求める式を選ぶ②除数が十分の一になったときの商の大きさについて正しいものを選ぶ……といった設問でした。
- 「変化と関係」の領域で、時間と速さの関係を考察する問題に課題が見られました。また、「短答式問題」や「選択式問題」でのミスや無解答が多く見られました。

2 国語

〈各領域における平均正答率〉



1 国語科における全体的な指標について

本校の平均正答率は、全道・全国を下回る結果となった。

2 優れている資質・能力について

- (1) 「話すこと・聞くこと」については、全国を上回る結果となった。
- (2) 「話すこと・聞くこと」の問題は、児童が現実の場面でコミュニケーションをとる力を評価し、その中で特に相手の話を正確に理解し要約する力や、論理的に話を構成する力が重視されている。
- (3) 今回の出題では、オンラインで交流する場面において、相手へ伝える工夫について高い正答率となった。国語の学びを学級活動や委員会活動等の目的意識をもった学びが成果につながっていると評価する。

3 課題となる資質・能力について

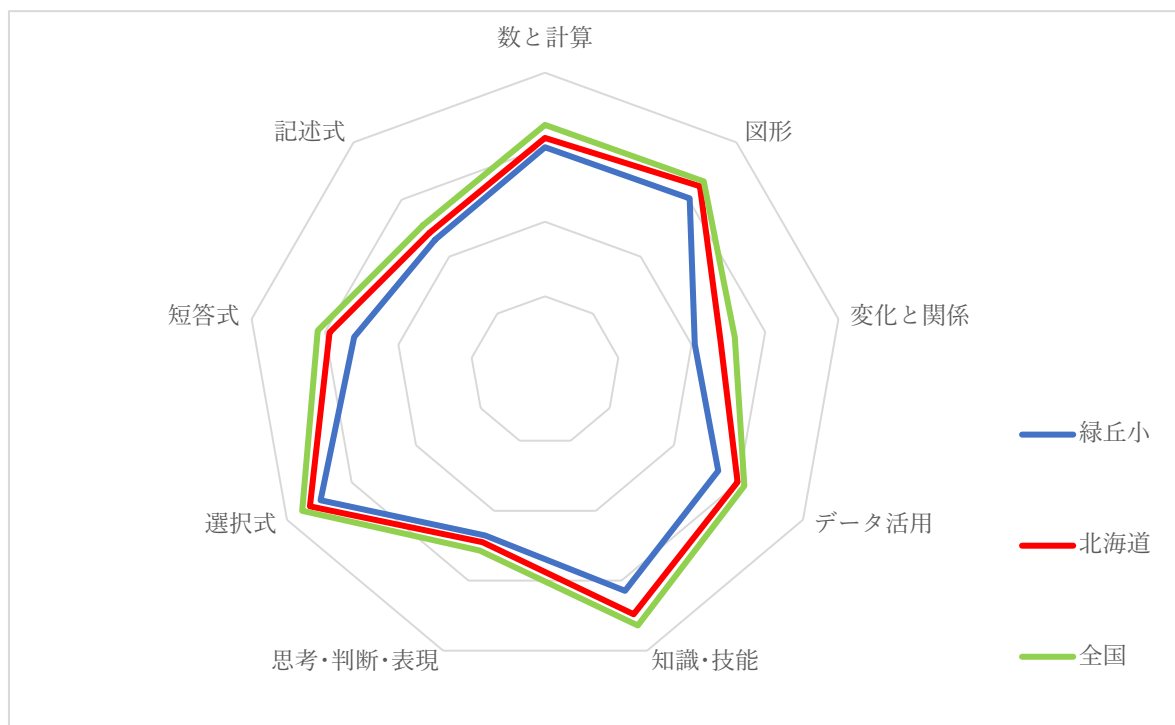
- (1) 「情報の扱い方」に課題が残る結果となった。
- (2) この領域では、事実と意見を区別しながら文章を書く能力が重要視されており、例えば「たてわり遊び」という活動についての記述問題が出題され、子どもたちが事実をもとに意見を述べる力が問われた。
- (3) 「事実」「意見」「感想」を区別した話し方・聞き方・書き方などの日常的な意識化を図った指導を他の教科や教育活動全般において指導で身に付けていく必要がある。

4 その他

- (1) 記述式問題、短答式問題において、無解答（何も書けない）の提出がある。今後は、伝えたいことを短い文で書くことに重視した指導を行っていく。
- (2) 「漢字の書き取り」や文章記述における「句読点や誤字脱字」によるミスも見られる。見直しの習慣化を図るとともに、家庭学習で漢字練習、言葉調べ等の継続化を図っていく。

3 算数

〈各領域における平均正答率〉



1 算数科における全体的な指標について

本校の平均正答率は、全道・全国を大きく下回る結果となった。

2 優れている資質・能力について

- (1) 正答率の高かった問題は、①問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ②除数が十分の一になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ③五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書くという設問であった。
- (2) このことから、実生活に即した具体的な状況や視覚的なイメージを通じて理解する力が高い。
- (3) 学習課題と実生活を結びつけた場面を想定した学習活動のしかけを重視した授業づくりを図っていく。

3 課題となる資質・能力について

- (1) 「変化と関係」の領域に課題が見られた。
- (2) 主に「速さ」や「比例関係」など、二つの数量間の関係を理解し、その変化について問われる問題が出題された。例えば、道のりが同じ場合に速さがどう変化するか、時間がどのように影響するかといった、時間と速さの関係を考察する問題に課題が見られた。
- (3) こういった問題では、実生活の中で起こりうる場面を想定し、速度や時間、道のりの関係を直感的に理解し、適切に説明できる能力が重要視されている。
- (4) 論理的な構造や関係性について、自分の言葉で表現できる力を国語科やプログラミング教育など、教科横断的な指導で養っていく必要がある。

4 その他

- (1) 「短答式問題」や「選択式問題」でのミスや無解答が多く見られた。
- (2) 算数で用いる用語や記号の理解、図形の定義や性質の理解、計算の手順の理解など、基礎基本の定着を重視した指導を今後も継続していく。

4 児童質問紙より

・朝食の摂取率は、全道・全国とほぼ同等で、「全く摂らない。」と答える児童はいませんでした。ただ、「あまり摂っていない。」と答える児童は、全道・全国に比べると上回っています。

・就寝時刻について、「毎日、同じ時刻に寝ていますか。」の設問に「している。」と回答した児童は、全道・全国と同等ですが、起床時刻について、「毎日、同じ時刻に起きていますか。」の設問に「している。」と回答した児童は、全道・全国に比べると下回っています。

○「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣は、ご家庭の協力もあり、比較的良い傾向となっています。引き続き、ご協力をお願い致します。

・「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(スマートフォン等)をしますか。」の設問や「1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで動画視聴をしますか。」の設問に「4時間以上」「3時間以上」「2時間以上」と回答した児童は、全道・全国に比べると全て大きく上回っています。

・「携帯電話、スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」の設問に「きちんと守っている。」と回答した児童は、全道・全国を大きく下回ったものの、「だいたい守っている。」の回答を含めると、逆に全道・全国を大きく上回る結果となっています。

○スクリーンタイム(テレビやネット動画の視聴、ゲーム等に関わる時間)については、半数近くの子ども達が3時間以上ゲームや動画を観ている現状があり、タブレットでの授業や家庭学習を含めると、子ども達の1日のスクリーンタイムが占める割合は、相当大きくなっていることが予想されます。

・「授業以外で、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか。」の設問に「3時間以上」「2時間以上」「1時間以上」と回答した児童は、全道・全国に比べると大きく下回っています。

・「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。」の設問に「4時間以上」「3時間以上」「2時間以上」と回答した児童も、全道・全国に比べると大きく下回っています。

○緑丘小学校では、「10分×学年」以上の家庭学習を推奨しています。4月に配布しています「家庭学習で学力アップ」等を参考にしながら積極的に取り組んでみてください。

・「自分には良いところがあると思いますか。」の設問に「ある。」と回答した児童は、全道・全国と比べると大きく下回っています。

・「将来の夢や目標をもっていますか。」の設問に「当てはまる。」「どちらかと言えば当てはまる。」と回答した児童が、全道・全国に比べると、ともに上回っています。

○成功体験を増やし、褒められたり、感謝されたりする経験を通して、自信と意欲を高めていけるようにサポートしていきます。学校外での活躍も積極的に評価し、学校便り等で紹介していきたいと考えていますので、ご協力をお願い致します。

全国学力・学習状況調査の結果は、全教職員で共有し、それぞれの学年・学級での学習活動に生かしています。学力の向上は本校の課題であり、それにはご家庭の支援が不可欠です。今後も現状にあった適切な目標を掲げ、その達成に向けて組織的に取り組んで参ります。今後とも、保護者の皆様のご協力をお願い致します。